

天王洲アートシティ創造推進施設「WHAT」拠点計画

1. 実施体制

1-1. 計画作成主体				
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	寺田倉庫株式会社	所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川2-6-10
	代表者	代表取締役社長 寺田 航平		
	地方公共 団体内部 の役割			
1-2. 連携する文化観光推進事業者				
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 天王洲・ チャンネルサイド活性化協 会	所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川2-6-10
	代表者	理事長 三宅 康之		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	エクスペリサス株式会社	所在地	東京都渋谷区渋谷1丁目12-8 ILA 渋谷美竹ビル
	代表者	代表取締役 丸山 智義		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	株式会社 MATCHA	所在地	東京都台東区雷門1-4-4
	代表者	代表取締役社長 青木 優		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	日本航空株式会社	所在地	東京都品川区東品川二丁目4番11号
	代表者	代表取締役社長執行役員 赤坂 祐二		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

2. 機能の強化に関する基本的な方針

2-1. 文化資源保存活用施設を取り巻く現状

2-1-1. 主要な文化資源

寺田倉庫は1970年より美術品の保管サービスを開始。その後、保税倉庫・輸送・修復・デジタイズなどの関連事業を展開。現在、美術館や国内外の著名コレクターの約十万点にのぼる所蔵アート作品を保管している。

※2020年6月時点では、保管するアート資産の展示公開事業は行っていない。約10年前より、寺田倉庫施設を利用するコレクターより所蔵作品を展示したいという用命が増えていることから、2020年度、現代アート作品を中心としたコレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」を2020年12月に開館した。

※開館当初の施設規模は、展示面積210坪／展示作品数：132作品。その後5年間を通じて段階的に増床し、展示作品数も拡充する。

5ヵ年計画目標

2020年度：美術館総面積210坪／最大展示作品数132作品

2021年度：美術館総面積210坪／最大展示作品数132作品

2022年度：美術館総面積330坪／最大展示作品数150作品

2023年度：美術館総面積430坪／最大展示作品数210作品

2024年度：美術館総面積510坪／最大展示作品数230作品

※作品数は大型作品などの作品サイズや点数により変動する。

・保管作品総数：約10万点

・主な保管作品

・文化庁

・高橋コレクション：3,000点 など

2-1-2. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

アートミュージアム施設であるコレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」では、展示する作品について、コレクション特性などによりストーリー性のある展示を行うとともに、作家紹介や時代背景解説などにより作品が生まれた経緯や現代アートにおける位置づけ等について解説・紹介を行う。

このような解説は、音声ガイドなどの活用等により詳細な情報を提供できるようにするとともに、来訪者の動向に合わせて、日・英の2カ国語表記をはじめとし、中国語・韓国語などの多言語化を図る。

2-1-3. 来訪客の動向

現在、寺田倉庫グループが運営するアート作品保管施設「TERRADA ART STORAGE」、WHAT MUSEUM内において建築模型というアート作品の展示を行う「模型保管庫」、ギャラリー・アトリエの集積施設

「TERRADA ART COMPLEX」、4500色の顔料や画材を取り揃えワークショップ等の体験学習も行う伝統画材ラボ「PIGMENT TOKYO」などの常設施設には、国内外からアーティスト、コレクター、ギャラリー関係者をはじめ、アート愛好家などの来訪がある。また「B&C HALL」「G号」「T-LOTUS」などのイベント施設では、自主開催・会場貸しを合わせて多彩なイベントを断続的に開催しており、その催事内容により多様な来訪者が訪れている。2019年の寺田倉庫のアート関連施設の利用者やイベントスペースの催事来訪者、および近隣周辺施設では、あわせて年間のべ100万にのぼる。

2019年、天王洲アイランドにおける寺田倉庫の関連施設および、周辺の来訪者の主な動向は以下の通り。

＜寺田倉庫 関連施設の動向＞ ※以下実績は新型コロナウイルス発生前の2019年時の実績値

- ・ 模型保管庫：建築模型に特化したミュージアム施設
来訪者 30,000人/年（内、訪日外国人旅行者 10%）
来訪者属性：建築作品愛好家、建築家を目指す学生など
- ・ TERRADA ART COMPLEX：ギャラリー、アトリエの集積施設
来訪者 20,000人/年（内、訪日外国人旅行者 10%）
入居ギャラリー：2020年6月現在8軒（2025年までに20軒の入居予定）
来訪者属性：アーティスト、コレクター、アート愛好家、アーティストを目指す学生など
- ・ B&C HALL & T-LOTUS：貸し出しイベントホール
イベント来訪者 10万人/年
来訪者属性：開催イベント対象者
- ・ G号：イベント貸し出しスペース
イベント来訪者 20万人/年
来訪者属性：開催イベント対象者
- ・ PIGMENT TOKYO：伝統画材ラボ
来訪者 4万人/年（内、訪日外国人旅行者約 60%）
来訪者属性：アーティスト、アーティストを目指す学生、アート愛好家など

＜天王洲周辺の動向＞

- ・ 天王洲チャンネルフェス：天王洲運河エリアにおける年4回開催の地域イベント
イベント来訪者 50,000人/年
来訪者属性：品川区及び都内住民・就業者など
- ・ 天王洲アートフェスティバル2019：巨大壁画などの国内最大級のMURALPROJECT
来訪者属性：品川区及び都内住民・就業者、アート愛好家、訪日外国人観光客など
- ・ 天王洲・チャンネルアートモーメント2019：水辺空間でのプレミアムライブ
来訪者属性：品川区及び都内住民・就業者、アート愛好家など
- ・ T. Y. HARBOR：醸造所併設ブルワリーレストラン
来訪者 30万人/年（内、訪日外国人旅行者約 20%）
来訪者属性：品川区及び都内住民・就業者、国内在住外国人、訪日外国人観光客など
- ・ 品川区天王洲アイランド第三水辺広場：公園（天王洲運河に接するボードウォーク空間）
来訪者 60,000人/年
来訪者属性：品川区及び都内住民・就業者、来街者など

2-1-4. 他の文化資源保存活用施設との比較

強み：

・ 立地：「天王洲アートシティ創造推進施設 WHAT 拠点計画」の申請対象となる寺田倉庫の施設は、東京モノレールおよびりんかい線の各天王洲アイランド駅から徒歩10分圏、JR品川駅からも徒歩圏内に位置する。日本の玄関口と都心をつなぐ東京モノレール（羽田空港-浜松町）、りんかい線（新木場-大崎・新宿方面：埼京線乗り入れ）の2線の駅を最寄駅とするため国内外観光客の交通アクセスに優れ、近隣

に宿泊ホテル施設もあることから、訪日外国人観光客の来日直後や離日前の観光スポットとしても適している。

・TERRADA ART PLATFORM：寺田倉庫では、アート資産保管施設「TERRADA ART STORAGE」だけでなく、保税倉庫や美術品の輸送・修復・デジタイズなどのサービスをワンストップで提供する機能を展開している。また、アート関連施設としては、建築模型に特化した「模型保管庫」（コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」と連動できるよう「WHAT MUSEUM」内に設立）、ギャラリーおよびアトリエの集積施設「TERRADA ART COMPLEX」、伝統画材ラボ「PIGMENT TOKYO」などの特色ある施設を展開し、核となるアート文化愛好家の利便性を高め、その来訪を獲得している。今後も「世界一のアートシティ」となる街づくりを目指し、アートに関するすべて、多種多様な文化を天王洲に集め、デジタイズし、DX（デジタルトランスフォーメーション）する究極のエコシステム「TERRADA ART PLATFORM」を推進することによる「日本のアート市場活性化」をミッションとして掲げている。

・大型イベント誘致：近年では寺田倉庫イベント施設を会場とする「デヴィッド・ボウイ大回顧展（2017/1-4）」や「スター・ウォーズ アイデンティティーズ：ザ・エキシビション（2019/8-2020/1）」、「シャネル・マドモアゼル プリヴェ展（2019/10-12）」などの誘致開催により、国内外から老若男女を問わず幅広い層の来訪を誘うに至る。

・その他取り組み：寺田倉庫施設が所在する天王洲アイランドは、地域開発当初より「アートになる島、ハートのある街」を街造り憲章のスローガンに定めており、街中には多様な屋外アートが点在するなどの文化観光の推進に取り組む地域である。その天王洲において寺田倉庫は、様々な芸術文化施設や水辺空間の賑わいを創造する水上施設の開発をはじめ、地域観光文化推進事業者である一般社団法人 天王洲・キャナルサイド活性化協会との連携により、国内有数の巨大な MURAL ART プロジェクトや水辺の屋外プロジェクトマッピング・イベント、内閣官房・2019 年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査による水上イベント、水辺空間を活かしたフェスやマーケットなどを実施協力することで、関係行政・地域社会とともに継続的に魅力ある街づくりに取り組んでいる。これら地域全体の取り組みの結果として、天王洲は2019 年品川区景観計画の重点地区、及び2020 年東京都プロジェクトマッピング活用地区として位置付けられた。

弱み：

・来街者特性：現在の天王洲アイランドの来街観光客の特性としては、水辺空間という非日常的な空間での散歩やデート、文化観光施設の利用を含めた「目的ありき」の来街者が多い。そのため上野や六本木などの都心部・繁華街に位置する芸術文化集積地と比した場合、その来街観光客の絶対数が少なく、余暇行動における隙間時間（寄り道）を狙った「往来者や富裕層の取り込み」による大量の施設来訪者の獲得は難しい。

また、寺田倉庫のアート関連施設は、アーティスト、コレクター、ギャラリー、アート愛好家、美大生などのコア層が主な利用者・来訪者となっており、ライトアートファン層や一般生活者に日常的・恒常的に広く開かれたアート施設や催事の開催は少ない。

・羽田空港との連携：羽田空港を利用する国内外観光客に注力した情報発信・誘引施策が十分に実施できていない。

2-2. 課題

■課題1：寺田倉庫が保管するアート資産の魅力の顕在化と新たな文化観光振興の創造

現在、寺田倉庫がコレクターなどから預かり保管する貴重なアート資産を展示公開する機会が無い。そのため、寺田倉庫のアート関連施設の利用対象者であるアーティスト、コレクター、ギャラリーなど現

代アートの主たるステークホルダーをはじめ、より広いアート愛好家やアートファン層に開かれた展示公開をするための新たな場、機会を創造する必要がある。

■課題2：アート資産との身近な出会いを創る身近に開かれた機会の創出

現在、ミュージアムなどのアート施設の訪問率調査では、「過去1年間に1回以上訪問した人」でも約37%にとどまっている（出所：「日本のアート産業に関する市場調査2018」より）。天王洲においても、文化観光拠点施設を核とした文化観光をさらに推進するためには、主たるターゲットであるアート愛好家ばかりでなく、アートファン層や天王洲の来街者、近隣住民・就業者、そして若手アーティストに対して魅力的に開かれた出会い機会の創出が必要である。

■課題3：新たな拠点計画施設を核とした文化観光の振興促進および好循環の創出

展示公開するアート資産の魅力をより増進させ、地域に貢献する文化観光の振興促進および好循環の創出を図るために、天王洲の様々な施設やイベントに来訪する多様なステークホルダー同士やアート愛好家、アートファン層間の出会いとそこから生み出される交流や連携の機会が必要であり、また、これを通じてアート関連施設の集積地としての天王洲の魅力と価値を強化・発信する必要がある。

■課題4：ターゲットの多様性に応じた環境の整備

「アートになる島、ハートのある街」を街造り憲章のスローガンに定めている天王洲の新たな文化観光の拠点施設としては、その開館当初より、外国人、老若男女、身障者の方々などの多様なターゲットに応じた利便性と安全を提供する環境を整備し、アート資産に対する理解をより深める機会を提供する必要がある。

■課題5：現在のコロナ環境下における文化観光拠点へのターゲット誘引

現在保管している価値あるアート資産の新たな展示公開の場・機会を創出した場合、現在のコロナ環境下においては、文化観光の推進において重要なターゲットである訪日外国人観光客の来訪動向を想定し難い。そのため、現時点での有力なターゲットと見込める国内のステークホルダーおよび観光客（国内在住外国人を含む）への情報発信および来訪獲得を促進する必要がある。

■課題6：訪日外国人観光客への情報発信

今後当面の環境がウイズコロナ、アフターコロナのいずれとなるにしろ、外国人観光客の訪日観光の再開本格化に向けて、日本の文化観光資源および文化観光拠点としての魅力を国内外に広く発信するとともに、羽田国際空港とのアクセス利便性が高いという強みを持つ天王洲の新たな拠点計画として、インバウンド施策に注力する必要がある。

2-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

■取組強化事項1：アートミュージアム施設として、コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」を開館（課題1及び2関連）

課題1の通り、現在、寺田倉庫がコレクターなどから預かり保管する貴重なアート資産を展示公開する機会が無い。そのため天王洲の新たな文化観光拠点として、コレクター所蔵の現代アート作品を中心としたコレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」を2020年12月に開館した。この施設により、寺田倉庫保管庫に眠っている未公開の作品を公開し、その価値をより広く開花させる機会を創出する。

・閉館後にレンタル可能なイベントスペースを利用し、展示に留まらず、作品との出会い、コレクションの魅力について語り合う「アートを楽しむ場」を創出する。

・アーティスト支援、リピーター獲得を目的とした会員制度「TERRADA ART PROJECT」を展開する。

■取組強化事項2：多様な来訪者に魅力的に開かれた出会い機会の創出（課題2関連）

・コレクション管理サイト「TAS オンライン」およびコレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」の公式WEBサイトの構築・連携により、関係ステークホルダーばかりでなく、アート愛好家予備軍や一般生活者に日常的・恒常的に広く現代アートに触れる機会を提供し、施設への来訪のきっかけとするとともに、アートギャラリーカフェ「WHAT CAFE」の開設（身近なアート展示・交流の促進／アートミュージアムへの誘引）により、アーティスト、コレクター、ギャラリー、アート愛好家、美大生などのコア層以外のアートファンにも現代アートが身近に楽しめる工夫を図る。

■取組強化事項3：アート関連施設の集積地としての天王洲の魅力と価値を強化・発信（課題3関連）

・地域の文化観光推進事業者との連携（天王洲における催事や取り組みでの面的連携）

・その他の文化観光推進事業者との連携（ミュージアム・ナイトツアー企画などでの魅力強化連携）

※羽田空港関連事業者との連携施策については、2021年度以降に日本航空株式会社との連携施策の実施を開始するが、新型コロナウイルスに伴う社会情勢も考慮しつつ展開を模索する。

■取組強化事項4：誰もが楽しめる環境の整備（課題4関連）

・バリアフリー推進（館内サインや音声ガイドの多言語化、エレベーター等の来訪者導線の整備など）

・定性・定量調査の実施による検証（スマートフォン活用での満足度調査／聞き取り調査など）

■取組強化事項5：ターゲットを明確にした情報発信（課題5及び6関連）

・コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」公式WEBサイトの構築（日英2ヶ国語による情報発信）

・インバウンド向けメディアの活用（訪日外国人に向けた多言語による情報発信・理解増進および誘引）

・SNS、WEBメディアなどを活用した国内外プロモーションの展開

3. 目標

3-1. 本計画で達成する目標

指 標	実績値		目標				
	19年度	20年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
① 来訪者の満足度（日本人） 単位：ポイント（平均）	新施設のため実績値なし（以下同）	—	3.7	3.9	4.1	4.2	4.3
（指標の把握方法）定性調査：スマートフォン活用による鑑賞サポートアプリ利用の来訪者に対する、顧客満足度アンケートの実施。（5段階評価）							
② 来訪者の満足度（外国人） 単位：ポイント（平均）	—	—	4.0	4.1	4.2	4.3	4.3
（指標の把握方法）定性調査：スマートフォン活用による鑑賞サポートアプリ利用の来訪者に対する、顧客満足度アンケートの実施。（5段階評価）							
③ 来訪者数（日本人） 単位：千人	—	—	21千人	64千人	80千人	96千人	112千人
（指標の把握方法）入館者のカウント							
④ 来訪者数（外国人） 単位：千人	—	—	1千人	16千人	20千人	24千人	28千人
（指標の把握方法）入館者のカウント							
（10年後の目標値及び計画期間中の目標値との関係） 来訪者数の増加は開館後5カ年で5倍増を目論んでおり、これ以降10年後までの来訪者数については微増と想定される。							
⑤ リピート率 単位：%	—	—	5	10	15	20	25
（指標の把握方法）鑑賞サポートアプリ利用の来訪者に対するアンケートの実施。							
⑥ 単位：							
（指標の把握方法）							
⑦ 単位：							
（指標の把握方法）							

3-2. 目標の達成状況の評価

毎年度、寺田倉庫と一般社団法人 天王洲・チャンネルサイド活性化協会が中心となって、来訪者の満足度調査の結果／関係ステークホルダーなどへの聞き取り調査／目標値の達成率・実績値の伸長率などの指標の分析に基づき検証し、課題・改善点などを見出すとともに、その他の時代環境要因を加味し、次年度の拠点施設の運営やその他施策取り組みを図る。

4. 文化観光拠点施設機能強化事業

4-1. 事業の内容

4-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号1-①)

事業名	アートミュージアムによるアート資産魅力増進事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アートミュージアム施設としてコレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」を開館。寺田倉庫保管庫に眠っている未公開の作品を公開し、その価値をより広く開花させる機会を創出する天王洲の新たな文化観光拠点として、コレクター所蔵の現代アート作品を中心としたコレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」を2020年12月に開館した。 ・閉館後にレンタル可能なイベントスペースを利用し、展示に留まらず、作品との出会い、コレクションの魅力について語り合う「アートを楽しむ場」の創出を図る。 ・アーティスト支援、リピーター獲得を目的とした会員制度「TERRADA ART PROJECT」を導入する。 ・来訪者が関連商品の購入、飲食、休憩をできる空間を併設。 ・また、アート文化資源の魅力増進および理解促進のため、コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」にて実施する展示の出展作家を招聘したイベントを実施する。 ・学芸員3名、アートキュレーター1名の体制で、コレクターのキュレーションを尊重し、後世にリレーすべき作品をキュレーションしていく。
実施主体	寺田倉庫株式会社
実施時期	2020年12月開館／各施策は継続して検討実施
継続見込	入館料収入等により継続
アウトプット目標	<p>寺田倉庫保管庫に眠っている未公開の作品を公開し、その価値をより広く開花させる機会を創出し、「アートを楽しむ場」の創出を図る。</p> <p>2020年6月末時点で全作品の50%の活用許可を取得。この交渉継続で、全体75%程の活用許可の取得を見込んでいる。残り25%及び、今後発生する新規入庫作品についても順次許可の取得を図る。</p> <p>2020年度：美術館総面積210坪／最大展示作品数132作品 2021年度：美術館総面積210坪／最大展示作品数132作品 2022年度：美術館総面積330坪／最大展示作品数150作品 2023年度：美術館総面積430坪／最大展示作品数210作品 2024年度：美術館総面積510坪／最大展示作品数230作品 ※作品数は大型作品などの作品サイズや点数により変動する。</p>
関連目標	取組強化事項1, 2 目標①～⑤

(事業番号1-②)

事業名	天王洲における文化観光の拠点としての魅力増進事業
-----	--------------------------

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・天王洲の新たな文化観光拠点としての魅力発信と、関連施設、ステークホルダー、地域社会などとの面的連携を図り、文化観光の振興および地域の活性化の好循環の創出に資するブランディングを推進する。 ・巨大な MURAL ART や屋外アート、水辺空間のプロジェクションマッピング・イベント、地域の季節催事など、地元行政や地域社会と連携して天王洲アイル周辺の水辺空間や街中の賑わい創出の促進に取り組んでいる地域文化観光推進事業者 一般社団法人天王洲・チャンネルサイド活性化協会と面的な連携・協力を図り、地域の文化資源の魅力増進に資する企画の検討を図る。また、東京都および品川区などの行政機関においても連携を図る。 ・羽田空港関連事業者との連携施策については、2021 年度に日本航空株式会社との連携施策の実施を開始（新型コロナウイルスに伴う社会情勢も考慮しつつ展開を模索していく）。 ・羽田空港、天空橋（HiCity）に関しては、羽田空港関係事業者との連携を引き続き検討。浜松町、竹芝（GiP）に関しては今後の検討事項とする。
実施主体	寺田倉庫株式会社、一般社団法人天王洲・チャンネルサイド活性化協会
実施時期	2022 年度以降も、連携・協力企画の検討とともに関係各所との調整などを図る
継続見込	天王洲・チャンネルサイド活性化協会とともに検討協議しながら継続
アウトプット目標	連携・協力施策により、地域の文化資源の魅力増進に資する企画を図る。
関連目標	取組強化事項 3 目標③～⑤

4-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号 2-①)

事業名	携帯端末活用によるアート資産理解促進・調査事業
事業内容	<p>「事業番号 1-①」に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年導入の QR コード方式の音声ガイドアプリに代る、展示作品についての関連情報、音声ガイド視聴、作品鑑賞メモ、SNS 投稿、アンケート取得が可能な携帯端末用の情報提供システム「WHAT 鑑賞サポートアプリ」を構築。日英 2 カ国語（※来訪者の動向に合わせて順次追加）による音声ガイドとともに、画像イメージとテキスト表示による展覧会の概要紹介・展示作品の解説情報により、アート資産の理解を深めるとともに、満足度の向上を図る。 ・翻訳に関しては、ネイティブスピーカーの知見も取り入れる方向である。また、文体のローカライズに長け、翻訳の品質が高い文化観光推進事業者 MACHA への翻訳業務の委託も並行して検討する。 ・鑑賞サポートアプリ利用後に事後アンケート回答画面に遷移し、顧客満足度アンケート調査を実施。この定性調査により来訪者の満足度や意向などを回収し、実施事業の効果分析や今後の事業展開における課題検証に活用する。また、出身国、リピート率等に関する測定も行う。

実施主体	寺田倉庫株式会社
実施時期	2020年12月開館／各施策は継続して検討実施
継続見込	入館料収入等により継続
アウトプット目標	・鑑賞サポートアプリにより、アート資産の理解を深めるとともに満足度の向上を図る。 ・来訪者に対する事後アンケート形式による定量調査の実査により、情報入手経路・満足度・その他意向などを回収し、実施事業の効果分析や今後の事業展開における課題検証に活用する。
関連目標	取組強化事項4 目標①②

(事業番号2-②)

事業名	富裕層向けコンテンツ創出事業
事業内容	「事業番号1-①」に関連して ・日本の伝統文化の素晴らしさの体験を世界に発信する海外富裕層向け体験企画の提供を行う文化観光関連事業者：エクスペリサス株式会社と企画連携し、ミュージアム・ナイトツアーなどの企画実施を通じて、拠点施設の利便性を増進するとともに文化資源の理解を深める魅力ある機会の創出を図る。 ・文化資源の理解促進およびアート学習に強く興味関心をもつ富裕層へのアプローチ手法として子供向け教育プログラムを実施。富裕層へのアプローチの手法として子供向けのプログラムという切り口を通じ、その両親へのアプローチ、また、富裕層ではない一般向けにもプログラムを水平展開が考えられる。 ・アート市場の経済的自立と成熟化、持続的発展に繋げるために、WHAT ナイトミュージアム・アーティスト交流サロンを開催。これを通じて、アーティストと企業の経営者やリーダー層と直接交流する場を作り、より深いアートへの理解と、感性の涵養を促すようなコミュニティ作りを行い、アートの産業化に繋げる。
実施主体	寺田倉庫株式会社、エクスペリサス株式会社
実施時期	エクスペリサス株式会社とともに検討しながら継続
継続見込	ツアー参加料等により継続
アウトプット目標	拠点施設の利便性を増進するとともに文化資源の理解を深める魅力ある機会の創出を図る。
関連目標	取組強化事項3 目標①～⑤

4-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	アートミュージアムにおける来訪者利便性向上事業
事業内容	「事業番号1-①」に関連して 「アートになる島、ハートのある街」を街造り憲章のスローガンに定めている天王洲の新たな文化観光の拠点施設として、その開館当初より、外国人、老若男女、身障者の方々などの多様な来訪者に対して、バリアフリーな利便性を提供する環境および文化資産の鑑賞

	<p>にかかる適切な室内環境を整備し、アート資産に対する理解をより深める機会の増進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス、Wi-Fi 環境の導入 ・館内案内の多言語化（日本語・英語 ※来訪者の動向に合わせて順次追加） ・エレベーター整備、誰でもトイレの改善改修などのバリアフリー環境の整備 ・空調、照明の改善 <p>など</p>
実施主体	寺田倉庫株式会社
実施時期	2020年12月開館／各施策は継続して検討実施
継続見込	入館料収入等により継続
アウトプット目標	バリアフリーな利便性と観覧上の安全を提供する環境を整備し、アート資産に対する理解をより深める機会の増進を図る
関連目標	取組強化事項4 目標①②

4-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	アートギャラリーカフェによるアート展覧・交流増進事業
事業内容	<p>「事業番号1-①」に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいアート体験を提供するアートギャラリーカフェ「WHAT CAFE」を開設。コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」の徒歩数分の至近に位置し、日常的に往来者の多いボンドストリートに面する寺田倉庫イベント貸出スペース「TMMT」を、アートミュージアム施設の情報発信と誘引を強化促進するために、年間250日程度をアートギャラリーカフェとして活用する。 <p>これにより、関係ステークホルダーやアート愛好家ばかりでなく、ライトアートファン層や天王洲の来街者、近隣住民・就業者、そして若手アーティストに対して魅力的に開かれた機会を創出し、さらなる文化資源の魅力と交流の増進およびターゲット層の拡大を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 展示・販売機能：若手アーティストの作品を展示・販売する空間を創出。若手アーティストは、展示スペースを持つことで、オーナーやギャラリーとの出会いの場、接点とする。 2) カフェ機能：食事をしながらアートを楽しむ空間を提供。展示スペース併設のカフェでアートのある空間を楽しみ、アーティストの作品や関連グッズを買うこともできる。 3) 学び機能：アートを楽しみながら学ぶ場を提供。カルチャーセミナー、イベント、ワークショップなどの開催を図る。
実施主体	寺田倉庫株式会社
実施時期	2020年10月開始／各施策は継続して検討実施

継続見込	カフェ収入等により継続
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く魅力的に開かれた機会を創出し、さらなる文化資源の魅力と交流の増進およびターゲット層の拡大を図る。 ・ 来訪者数：50,000人/年 ・ 施設利用アーティスト数：150人/年
関連目標	取組強化事項2 目標①～⑤

4-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号5-①)

事業名	オンライン活用によるアート資産魅力増進事業
事業内容	<p>「事業番号1-①」に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コレクション管理サイト「TAS オンライン」を構築。 <p>世の中には数千万点に及ぶ優れたアート作品が存在するが、大半のアートはコレクターの手元で管理され、一般には公開されていない状況にある。デジタル技術とIT技術を駆使することで、アートがWEB上で共有され人類の資産でもあるアートが後世にも受け継がれていくプラットフォームを開発し推進する。また、専門知識がない等で距離をおきがちなアートとの新たな出会いを創出し、「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト（「事業番号5-②」）との連携を図り、アートの魅力をより多くの人に伝え、アート市場の活性化を図る。</p> <p>※「TAS オンライン」利用者は所有コレクションのWHAT MUSEUMでの展示意向をコレクション管理ページより登録できるようになっており、WHAT MUSEUMのキュレーションに活かせるよう情報連携を行っている。登録された作品データの「WHAT MUSEUM」公式WEBサイトへの連携などは、著作権法的な問題への対応も考慮しながらデータ活用を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VR/AR（又はメタヴァース）の活用による、TAS オンライン上に登録したコレクションをデジタル空間上で閲覧できるバーチャルアートミュージアムを活用した情報発信と魅力増進。
実施主体	寺田倉庫株式会社
実施時期	<p>「TAS オンライン」・「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト連携：検討中</p> <p>※TAS オンラインにて「WHAT MUSEUM」展示希望の情報については連携済み</p>
継続見込	入館料収入等により継続
アウトプット目標	<p>コレクションサイト「TAS オンライン」と「WHAT MUSEUM」公式WEBサイトの連携を図り、アートミュージアムの情報発信力の強化と魅力を増進する。</p> <p>コレクションサイト「TAS オンライン」登録点数目標</p> <p>2020年度：1,800点（「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト未掲載）</p> <p>2021年度：10,000点（「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト連携方法検討）</p> <p>2022年度：30,000点（「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト連携方法検討）</p> <p>2023年度：50,000点（「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト掲載目標：1,000点）</p> <p>2024年度：80,000点（「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト掲載目標：3,000点）</p>

	<p>※「WHAT」公式WEBサイトへの作品画像データ連携に向けては作家の許諾を得る等で掲載作品数を増やすべく努めるが、著作権法の状況により変動する可能性あり。</p> <p>※作品所有権者との掲載許可の調整状況により変動の可能性あり。</p>
関連目標	取組強化事項2 目標③～⑤
(事業番号5-②)	
事業名	アートミュージアムにおける情報発信の充実強化事業
事業内容	<p>「事業番号1-①」に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」の公式WEBサイトを構築。ミュージアムにおける企画展、イベントや作品などの情報を日英2カ国語（※来訪者の動向に合わせて順次追加）にて発信し、アートミュージアムの情報発信力の強化と魅力増進を図る。また、コレクション管理サイト「TAS オンライン」（事業番号5-①）との連携を順次図る。 ・基本的プロモーション施策として、アートミュージアム施設のブランド価値向上、および認知訴求の促進のために、様々な機会を活用可能なPR動画を作成。この活用を通じて拠点施設の魅力をわかりやすく訴求するなどの情報発信における機能強化と文化観光資源の魅了増進を図る。 <p>また、SNSや動画共有サイトなどのネット媒体において断続的なネット広告の配信を展開し、展覧会や展示作品に関する情報発信の充実強化を図る。</p> <p>出稿予定媒体：Instagram・Facebook／Twitter／Youtube／LINE</p> <p>広告対象：アート、映画、建築、観光、旅行、エンタメ、ファッションに興味がある層</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人観光客向けプロモーション施策（国内在住外国人を含む）として、コロナ環境下にある現時点で今後の動向予測は難しいが、外国人観光客の訪日観光の再開本格化に備え、文化観光推進事業者 MATCHA が運営する訪日外国人観光客向け Web 媒体を活用した多言語による情報発信の充実強化を図る。このプロモーションを通じて、日本の文化観光資源および文化観光拠点としてのアートミュージアム施設の魅力を国内外に広く発信する。（MATCHA は圧倒的な実績、充実した多言語サービス（10カ国語）、メディアバリュー（月間340万ユーザー、660万PV）を誇り、在日外国人および訪日を予定する外国人の支持を獲得している。文化観光推進事業者として、その他共同申請者と連携した定期的な情報発信を行っていく。） <p>出稿予定媒体：MATCHA (matcha-jp.com)</p> <p>配信予定言語：3言語（英・繁・タイ）～6言語（日・英・繁・簡・タイ・韓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットについては、訪日外国人観光客数動向（国籍、月別の推移など）はJNTOを参照し、広告配信、多言語対応の対象国をタイムリーに判断していく。 ・その他に、アートミュージアム施設への来訪者誘引を促進するために、告知看板などを設置する。
実施主体	寺田倉庫株式会社／株式会社 MATCHA（※但し、株式会社 MATCHA は、訪日外国人観光客向け Web 媒体「MATCHA」の活用のみを対象。）
実施時期	2020年10月開始／各施策は継続して検討実施
継続見込	入館料収入等により継続

アウトプット目標	<p>関係ステークホルダー、アート愛好家及び国内外観光客に向けて情報発信における機能強化と文化観光資源の魅了増進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートミュージアム公式 WEB サイト ・PR 動画 ・SNS などの広告：Instagram・Facebook／Twitter／Youtube／LINE ・訪日外国人観光客向け Web 媒体 PR：MATCHA ・告知看板／図録／アーカイブ映像／訪日観光客向け映像など ・来訪者へのアンケート調査により、情報入手経路・満足度・その他意向などを回収し、実施事業の効果分析や今後の事業展開における課題検証に活用する。
関連目標	取組強化事項5 目標③④

(事業番号5-③)

事業名	アートギャラリーカフェ開設における情報発信の充実強化事業
事業内容	<p>「事業番号4-①」に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートギャラリーカフェ「WHAT CAFE」の公式WEBサイトを構築。 <p>アートギャラリーカフェにおける若手アーティスト展、作家や作品、その他イベントなどの情報を発信し、アートギャラリーカフェの情報発信力の強化と魅力増進を図るとともに、コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」／「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト／コレクション管理サイト「TAS オンライン」などとの相互送客・相乗効果の促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「TAS オンライン」と連携を図り、VR/AR（又はメタヴァース）の活用による、TAS オンライン上に登録したコレクションをデジタル空間上で閲覧できるバーチャルアートミュージアムを活用した情報発信と魅力増進を図る。 ・SNS 媒体において断続的なネット広告の配信を展開し、展覧会や展示作品に関する情報発信の充実強化を図る。 <p>出稿予定媒体：Instagram・Facebook・Twitter</p> <p>広告対象：アート、映画、建築、観光、旅行、エンタメ、ファッションに興味がある層</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他に、アートギャラリーカフェ施設への情報発信の充実強化、来訪者誘引を促進するために、情報提供を行うイベント告知チラシ、映像コンテンツやグラフィックコンテンツの製作などを行う。
実施主体	寺田倉庫株式会社
実施時期	2020年10月開始／各施策は継続して検討実施
継続見込	カフェ収入等により継続
アウトプット目標	<p>アートギャラリーカフェ「WHAT CAFE」の情報発信力の強化と魅力増進を図るとともに、コレクターズミュージアム「WHAT MUSEUM」／「WHAT MUSEUM」公式WEBサイト／コレクション管理サイト「TAS オンライン」などとの相互送客・相乗効果の促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートギャラリーカフェ公式 WEB サイト ・SNS などの広告 ・イベント告知チラシ、映像コンテンツやグラフィックコンテンツ ・来訪者へのアンケート調査により、情報入手経路・満足度・その他意向などを回収し、実施事業の効果分析や今後の事業展開における課題検証に活用する。

関連目標	取組強化事項5 目標③④
4-1-6. (1)～(5)の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	
(事業番号6-①)	
事業名	アートギャラリーカフェ開設における展覧設備整備事業
事業内容	<p>「事業番号4-①」に関連して 2020年10月開始のアートギャラリーカフェ「WHAT CAFE」は、寺田倉庫のイベント貸出スペース「TMMT」を年間250日程度において活用し運営する企画催事施設である。 来訪する関係ステークホルダーやアート愛好家ばかりでなく、ライトアートファン層や天王洲の来街者、近隣住民・就業者、そして作品展示を行う若手アーティストなどへ魅力的に広く開かれた展覧機会を提供する環境を整備し、アート資産に対する理解をより深める機会の増進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイン関係の整備 ・作品展示、販売設備の整備 など
実施主体	寺田倉庫株式会社
実施時期	2020年8月着工／各施策は継続して検討実施
継続見込	—
アウトプット目標	様々な来訪者に対して魅力的に開かれた展覧・交流の機会などを提供する環境整備を推進することにより、アートギャラリーカフェの運営を促進する。
関連目標	取組強化事項2 目標①～⑤

4-2. 特別の措置に関する事項

4-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	(該当する事業計画の実施は現在予定していない)
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条(法の特例)
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

4-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	所要資金額		調達方法
		自己資金	その他 (補助金)	
令和2年度	138,222,844円	63,082,844円	75,140,000円	自己資金及び令和2年度文化芸術振興費補助金（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業）
令和3年度	170,000,000円	95,000,000円	75,000,000円	自己資金及び令和2年度文化芸術振興費補助金（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業）を想定
令和4年度	200,000,000円	125,000,000円	75,000,000円	自己資金及び令和2年度文化芸術振興費補助金（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業）を想定
令和5年度	230,000,000円	155,000,000円	75,000,000円	自己資金及び令和2年度文化芸術振興費補助金（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業）を想定
令和6年度	270,000,000円	195,000,000円	75,000,000円	自己資金及び令和2年度文化芸術振興費補助金（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業）を想定
合計	1,008,222,844円	633,082,844円	375,140,000円	

5. 計画期間

2020 年度：拠点施設の計画・施設整備・開館／デジタル関連事業構築・公開
2021 年度：拠点施設の増床・作品数拡充・施設整備／デジタル関連事業拡充
2022 年度：拠点施設の増床・作品数拡充・施設整備／デジタル関連事業拡充
2023 年度：拠点施設の増床・作品数拡充・施設整備／デジタル関連事業拡充
2024 年度：拠点施設の増床・作品数拡充・施設整備／デジタル関連事業拡充